

春日部麗しの杜にも桜が！

●花見の季節！

花見の季節だ。小説にもし「花見小説」というのがあるとすれば、谷崎潤一郎の「細雪」など、その筆頭ではないか。戦前の関西の裕福な家庭の4姉妹が主人公だから、花見といっても趣は異なる▲「常例としては、土曜日の午後から出かけて、(京都)南禅寺の瓢亭(ひょうてい)で早めに夜食をしたため、これも毎年欠かしたことの無い都踊を見物してから帰りに祇園の夜桜を見、その晩は麩屋町(ふやちょう)の旅館に泊って、明るく日嵯峨から嵐山へ行き」という調子。桜巡りの小旅行である▲主人公のひとり幸子は新婚旅行で夫に好きな魚を聞かれて、「鯛(たい)やわ」と答え、あまりの月並みぶりを笑われてしまう。だが彼女は「鯛こそは最も日本的なる魚であり、鯛を好まない日本人は日本人らしくない」と思う▲吉例や伝統に従うとはっきりとした手ざわりで感じることでできる「幸福」とまで言わなくとも「楽しみ」というものがある。幸子という人ははたから見れば退屈なひとかもしれないが、とても賢明なひとなのかもしれない▲細雪ほどでなくとも、日本人は分に應じて花見を楽しんできた。それが日本人の美意識を形作ってきたのである。震災の被災者を思いやって花見自粛論が出ている。酔態をさらしての放歌高吟はこういうときでなくとも控えたい。しかし、節度をもって日本の美を楽しむことを遠慮する必要はなかろう▲米国の首都ワシントンのポトマック河畔は日本から贈られた3000本のサクラの名所として知られる。先月24日には咲き始めたサクラ並木で「日本支援」の黙とうと静かなデモが行われた。サクラの花にはひとの心を結ぶ力もある。

【毎日新聞「余録」4月3日】

*

●春日部麗しの杜にも桜が・・・！

昨年10月31日に植樹祭を行った「春日部麗しの杜」も、1月29日の野鳥観察会に続いて今日4月3日は「花見」で3回目の活動を考えていたのですが、震災の影響から先々週中止を決め、各自で花の良い時期に訪れていただくよう会員の皆様にご連絡しています。

「春日部麗しの杜づくり事業」は10年間にわたり樹木や花の植え続けていこうという事業で、今回は全部で5本、シラガシ2本【写真①】、シャラ2本、イロハモミジ1本を川久保公園の駐車場脇エントランス部分に業者をお願いして植えました。



一方、昨年私たちが植えた木々も順調に育っており、新芽が膨らみ始めてそれぞれに葉を拓ける季節を待っているようでした【写真②】。

川沿いの築山ではハクレンが咲き終わり、桜の花がちらほらと開き始めています。来週には、このあたり一面でソメイヨシノが楽しめると思います【写真下③:中央が昨年植樹を行った築山、大きな既存樹はハクレン】。



川沿いの桜はまだ蕾が固く、ほころび始めている木を探すのが難しいのですが、陽だまりの中で少しだけ花を開かせている木を見つけました【写真④】。



昨日も木々の下に集う人達を見ることができました。市内も少しずつ普段の生活に戻りつつあります。来週になればこうした桜を楽しむことができるようになり、今年の入学式は、久々に桜に包まれることになりそうです。

「桜の下での花見は、もともと浄化作用と自分の持つ魅力がアップする効果がある」とも言われています。桜の花を楽しみながら、心を浄化して皆さんの魅力を向上させてみてはいかがでしょうか・・・？春日部駅東口の「ぷらっと」からは貸自転車も！